当院檀信徒の皆様

引越しや住居表示変更などで、連絡先が変わった場合は、速やかにお知らせ願います。

明王院だより

第14号
平成２８年７月１８日

真言宗豊山派 明王院（赤不動）
〒123-0851 足立区梅田4-15-30
TEL 03-3852-7378

えんま様に見守られ

本堂（赤不動）の東側にえんま様を安置する小さなお堂があるのをご存じですか。御像と御堂、いずれも近年大きな傷みが目立ってきたことから、このほど解体修理し、昨年春に完了しました。

本堂の東側、八彦尊の御堂と並んで、その北隣にえんま堂が位置しております。幅と奥行きはいずれも約一メートルほどの小さな御堂で、堂内には文字通りえんま様の御像がまつられております。えんま堂は八彦尊堂とともに、かつては木造の旧本堂内にありました。昭和四十八（一九七三）年に現本堂が完成したのを機に、屋外の現在地に御堂ごと移動しました。この度の御堂の修理においては、屋根を銅板吹きにし、羽目板や軒まわりを全面的に補強いたしました。

えんま様の御像は像高約六十センチの坐像です。頂きに宝珠をつけ、前面に「王」字を表した冠をかぶり、あげ頸の道服を着けています。両目を見開いて忿怒の表情をしており、あご髭をたくわえています。右手には笏を持っており、沓を履き、右足を左足の上にのせる半跏坐の姿勢をとっています。針葉樹材による寄木造りであり、玉眼が嵌めこまれています。制作時期を裏付ける銘文等は残されていませんが、江戸時代後期の制作と考えられています（『足立区仏像調査報告書』）。今回の修理により、過去に少なくとも二回大きく修理された痕跡が認められました。面相部については、過去の修理で塗り重ねられた彩色を取り除くことにより、造像当初の顔立ちの彫りの深さを取り戻すことができました。

えんま様は正式には閻魔王と呼ばれますが、冥土には亡者の生前の行いを裁く十人の王様（十王という）がいらっしゃり、その筆頭に位置づけられることから閻魔大王とも呼ばれます。身につけている道服は中国宋代の裁判官の服装との説があります。学校の先生が生徒の評価をするときに使う帳面をえんま帳といいますが、もともとは、亡者が生きていたときおこなったあらゆる行動をえんま様が書きとめた帳面のことです。このえんま帳と亡者の生前の行いをなんでも映し出す浄玻璃の鏡とをよりどころとして、亡者の裁きをするのだと言われております。えんま様のこうした役割とこわもての顔つきから、ただただ畏怖すべき、恐い仏様のように思われるかもしれません。しかし、えんま様は地蔵菩薩の化身だとされており、その心の底には大いなる慈悲をたたえているのです。

この度の修理において御像を解体をしたところ、胎内からヤモリらしき卵がいくつも見つかり、また多くの卵の抜け殻が出てきました。どうやら、長年にわたり、えんま様の胎内はヤモリの産卵孵化の場所になっていたようなのです。えんま様に見守られて育ったヤモリはやがて境内のあちらこちらへと旅立っていたことでしょう。なかには産卵のため再びえんま様の胎内に戻ったヤモリがいたかもしれません。

子供のころ「嘘つくとえんま様に舌を抜かれちゃうぞ」と脅かされた記憶をお持ちの方もいらっしゃるかと思います。そんな記憶をお持ちの方は、当院へお越しの際は、ぜひ子供の頃にかえった気分でえんま堂にお参りください。えんま様に見守られながら、日々のご自身の言動を静かにふりかえり、いつどんな状況でだれにどんな言葉をかけたか、そして舌を抜かれるような嘘をついていなかったか、こうした点検のひとときをお持ちになってみてはいかがでしょうか。

木造不動尊像
（当院蔵）

みちしるべ

斜めに左の一目を閉ずるは、左道を掩うて一に入るるなり
（弘法大師著『不動尊功能』）

お不動様の目つきは、左目を細くして、視線も左右で上下になっている。これを天地眼という。左目を細くしているのは、誤った方向へ向かう道をさえぎるためである。われわれは仕事においても生活においても、多くの選択肢のなかからどれを選ぶか判断に迷うものである。選択肢の数が多いほど、適切な判断をすることはむずかしくなる。判断に先だって情報収集や条件整理などの作業をすることは大切である。その上で、お不動様のお力添えをいただき、よくない選択肢をさえぎってもらおう。判断はきっと確かなものとなるであろう。

今後の主な予定

7月18日　施餓鬼会

9月19日～25日　秋のお彼岸

9月28日　護摩祈祷会
お札を申し受けます

11月4日　東京文化財ウィーク
都指定文化財・如意輪観音像を拝観できます

1月28日　護摩祈祷会

平成二十八年　年回表

一周忌	平成二十七年
三回忌	平成二十六年
七回忌	平成二十二年
十三回忌	平成十六年
十七回忌	平成十二年
二十三回忌	平成六年
二十七回忌	平成二年
三十三回忌	昭和五十九年
三十七回忌	昭和五十五年
四十三回忌	昭和四十九年
四十七回忌	昭和四十五年
五十回忌	昭和四十二年

こらむ

▼「井の中の蛙大海を知らず」という。狭い範囲のことしか知らず広い世界に考えが及ばないという意味である。この言葉に「されど空の青さを知る」という続きがあるのはご存知？この続きまで含めるとたとえ狭い領域でも深く知りつくすことを称賛する言葉のように響く▼われわれはどうしても自分の感覚や経験にひきづられがちだ。自分では全く意識のない色眼鏡をかけ、そのレンズの色や眼鏡のふちに制限されてその外側のことにはなかなか気づかない。視野を広げろとはよく言われるが実際にはなかなかできないことなのである▼同じように実は続きのある言葉を紹介する。続く言葉で印象がどう変わるか味わってほしい▼「柔よく剛を制す」の続きは「剛よく柔を断つ」。柔だけでなく剛の良さも評価している▼「地球は青かった」の続きは「しかしどこを見回しても神はいなかった」。初の有人宇宙飛行をしたガガーリンの言葉。後半も御存知なら相当な物知りかも▼「男は度胸、女は愛嬌」の続きは、「坊主はお経」というのだそうだ（R）

東京新聞の記事より

本年６月３日の東京新聞朝刊に当院について触れた記事が掲載されましたので、紹介いたします。本寺報への再掲載にあたって、中日新聞東京本社より許可を得ました。もとの紙面に近い大きさで収めるため、縦横が逆になっています。回転させてご覧ください。

2016年（平成28年）6月3日（金曜日）　11版　28

泉麻人の東京のらりくらりバス遊覧

コラムニスト泉麻人さんが、イラストレーターなかむらるみさんとバスで旅する「散歩エッセー」です。

本日、見かけた人たち。

「手は背中で隠すべき見苦しいだけだ」

③ お化け煙突の町と赤不動

浅草寿町 → 足立梅田町／都バス（足立区）

始点の浅草寿町ってどこ？かというと、地下鉄銀座線の田原町（台東区）。今回乗る「足立梅田町」行きの〈草41〉という系統は、昭和30年代から存在する、都バス古参路線の一つだ。

「大下」は、オオシタではなく、オオサガリ。昔の字の名称が残されているのも、歴史深い路線ならではの妙味だ。

都電荒川線が交差する町屋の駅前に差しかかった。15年くらい前、初めてこの路線バスに乗ったとき、車窓越しに見つけた靴屋の看板「流行へップと活動靴」という文句が忘れられない。ヘップって？と調べたら、「ローマの休日」でオードリー・ヘップバーンが履いていた、今でいうミュール風のサンダルの俗称。映画公開の昭和20年代末ごろに流行したらしい。その靴屋ももはや見当たらない。

隅田川を渡ると「千住桜木」（足立区）。ここで途中下車するとしよう。

ミステリーの名残

さっきバスで渡った尾竹橋の橋詰め、帝京科学大学の玄関先に昔この近くに存在した「お化け煙突」の残骸とミニチュア模型が飾られている。

お化け煙突―。東電千住発電所の４本の煙突のことで、眺める角度によって煙突が重なり３本、２本…と数を変えるる。大正15（1926）年に建設され、東京五輪前年の昭和38（1963）年まで稼働（翌年夏撤去）した。

僕も子どものころ、松戸に墓参に行くときに常磐線から眺め、弟とハシャいだ印象がぼんやり残っている。

このキャンバス裏手に回ると、元祖増殖炉という神社がある。この境内にも「旧千住四本煙突守護社」と刻んだ木碑が存在するが、もう一つ「いつでも夢を」と刻んだものも。橋幸夫と吉永小百合のデュエットで大ヒットしたあの曲。映画化された時のロケ地が近い。

懐かしミルクホール

その向かい側、木造２階建ての渋い喫茶店が見える。看板に「ミルクホール」とも記されたこの店「モカ」には、以前も入ったことがある。

いかにも人の良さそうな初老の男が１人で店をやっている。昭和36年に先代が開業、２階に暮らしていた店主は幼いころにお化け煙突を日近に眺め、とくに崩していたとき

「モカ」のナポリタン。「影響受けの味」は故郷の安売り酒

「お化け煙突」の三つ子？「煙突模型を手前に置きつつ入生を語る」と泉さん

「お化け煙突」を眺めつつ「モカ」のナポリタンを食べながら泉さん

古い路線の味わい

国際通りから言問通りに入ったバスは、鬼子母神のある入谷の町を西へ。車窓にいい感じの大衆食堂が見える。

鶯谷の駅前陸橋の下をくぐって上根岸、東日暮里の繊維問屋街へ。その先のバス停

千住桜木のバス停で乗車を待つ間に見かけた「外壁から柳がにょきっと伸びた家屋」

泉麻人　1956年、新宿区出身。6月中旬、「大東京23区散歩」（講談社）が文庫化。

なかむらるみ　イラストレーター。1980年、新宿区出身。「おじさん追跡日記」（文芸春秋）等。

連載の長文版はホームページ「東京新聞ほっとWeb」で読むことができます。次回は6月下旬、掲載予定。

「ナポリタン・ケチャップ多め」

「お化け煙突」の三つ子？「煙突模型を手前に置きつつ入生を語る」と泉さん

「ぜーぜー…」

「ナポリタン」は泉さんが考案した「Poo-Tang」の略称

お断り